

令和2年度西桂町地域農業再生協議会水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当該地域は、耕地面積に占める主食用米面積の割合が約22%であり、農家の高齢化及び農家戸数の減少により不作付地が増加傾向にあり水稲作付面積の維持が課題となっている。こうした中、遊休農地をこれ以上増やさない対策として、産地交付金を活用しながら転作作物としてそばや大豆の特産品化を目指す。

2 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

売れる米作りを基本としつつ、県協議会から示された生産数量目安に沿った作付を徹底し、併せて前年の需要動向や集荷業者の意向を勘定した品種の生産・拡大を図ることとする。県内の米、麦、大豆等の需要動向を把握しつつ、非主食用米の飼料用米の作付を推進する。

(2) 非主食用米

ア 飼料用米

主食用米の需要減が見込まれる中、飼料用米を転作作物の中心作物に位置づける。また、飼料用米の生産拡大にあたっては、国からの産地交付金を活用した多収性専用品種の導入推進を図り5年後には地域の水田面積の1割での導入を目指す。

イ 米粉用米

産地交付金を活用しつつ、井出酒造との結びつきを強化し生産の拡大を図っていくこととし、5年後には現在の1.5倍の契約数量を目指す。

(3) 麦、大豆、飼料作物

町内において大豆の需要が見込まれるため、地産地消の特産品及び水田の転作、遊休農地対策として推進に取り組んでいく。

(4) そば、なたね

町内においてそばの需要が見込まれるため、地産地消の特産品及び水田の転作、遊休農地対策として推進に取り組んでいく。

(5) 高収益作物（園芸作物等）

産地交付金を活用し、安定的な生産を図る高収益作物を掘り起こし、販路拡大を行い地域の特産物として推進していく。

(6) 畑地化の推進

産地交付金を活用し、安定的な生産を図る高収益作物を掘り起こし農家の所得向上を目指すことで、遊休農地の発生防止、解消に繋げる。

3 作物ごとの作付予定面積

作物	前年度の作付面積 (ha)	当年度の作付予定面積 (ha)	2020年度の作付目標面積 (ha)
主食用米	20	18	18
飼料用米	0.2	0.4	0.4
米粉用米	0	0	0
新市場開拓用米	0	0	0
WCS用稲	0	0	0
加工用米	0	0	0
備蓄米	0	0	0
麦	0	0	0
大豆	0.2	0.2	0.2
飼料作物	0	0	0
そば	0	0	0
なたね	0	0	0
その他地域振興作物	8	8	8
野菜 ・露地野菜 ・ ・	8	8	8

4 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	用途名	目標	目標値	
				前年度（実績） (○年度)	(○年度)
				(○年度)	(○年度)
				(○年度)	(○年度)

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。

※ 目標期間は3年以内としてください。

5 産地交付金の活用方法の明細

なし